

令和4年度（2022年度）第1回日高管内いじめ問題等対策連絡協議会の概要

本協議会では、管内における児童生徒のいじめ等の現状や課題を確認するとともに、いじめの早期発見・早期対応及び未然防止に向けた児童生徒の主体的な取組の推進、児童生徒の不登校や家庭環境に起因する問題について、意見交換を行いました。



説明1 「道内及び管内のいじめの問題等の現状と課題について」（令和2年度の状況）

- いじめ
「いじめの発見のきっかけ」は、「アンケート調査など学校の取組により発見」と回答した割合が最も高かった。
- 不登校
全道ではすべての校種で増加している。日高管内では、中学校が最も多い件数であった。

説明2 「いじめの早期発見・早期対応及び未然防止に向けた児童生徒の主体的な取組の推進、児童生徒の不登校や家庭環境に起因する問題について」

- いじめ
いじめの未然防止を図るため、いじめを自分のこととして捉え、考え、議論するような活動に取り組むことや、いじめを生まない環境の醸成に努めることなどが重要である。
- 不登校
不登校については、ICTを活用した学習支援に取り組みながら、社会的自立を目指すという視点に立って、各学校や関係諸機関で、児童生徒やその家庭への支援を行うことが重要である。
- 家庭環境に起因する問題
ヤングケアラーについて、子どもは自分の家庭しか知らずに育つことが多く、客観的な視点を持ちにくいことから、本人に自覚がない場合が多いため、実態把握について、学校及び関係機関で推進を図る必要がある。

意見交換

問題行動等の諸課題の解決に向けた実効性のある取組について

柱1 いじめの早期発見・早期対応及びいじめの未然防止に向けた児童生徒の主体的な取組の推進について

- 「いじめは許されない」という教え込みだけではなく、「なぜだめなのか」ということを考えさせるような人権教育を取り入れ、事例を基に考えさせる活動に取り組むことが大切。（校長会）
- いじめ問題を起こさない子どもを育成するという観点から、道徳教育の充実や自己肯定感を高める取組が重要。（PTA）

意見交換

柱2 不登校児童生徒に対する、ICTを活用した学習支援、教育相談及び保護者連携の方策について

- ICT環境が校内、家庭で整備されてきていることから、児童生徒の実態に合わせたオンラインによる対応が必要。（PTA連合会）
- 不登校児童生徒の支援に加え、その保護者を孤立させないような、関係機関等との接点を作ることが重要。（子ども育成団体）



柱3 ヤングケアラーに対する理解及び支援の方策について

- ヤングケアラーという言葉を知らないという児童生徒や、当事者自身がヤングケアラーと捉えていない場合が多い。より積極的な情報発信が重要。（振興局）
- ヤングケアラーへの対応については、「気付く」、「つなぐ」ということを意識することが重要。（教育委員会）

まとめ

- いじめの早期発見・早期対応として、児童生徒に対する調査等を充実させ、いじめを積極的に認知して組織的な対応につなげることが重要である。また、いじめの未然防止に向けた児童生徒の主体的な取組として、いじめを生まない環境の醸成や、児童生徒がいじめについて議論するような活動に学校が取り組むことが重要である。
- 不登校児童生徒の対応として、ICT等を活用した「学びを止めない」「心を近づける」支援の充実を図る必要がある。
- ヤングケアラーへの対応として、ヤングケアラーについての理解を深めること、また、ヤングケアラーに該当する児童生徒がいた場合には、関係機関へつなぐことが重要である。